

滋賀県下出土の押型文土器

中井 均

現在滋賀県下では今回調査を実施した磯山城遺跡を除く17遺跡において押型文土器が出土している。ここでは県下における磯山城遺跡の位置を少しでも明らかにすべく、以下に参考資料として紹介してみたい。

1. 坂口遺跡 伊香郡余呉町坂口

1976年に実施された発掘調査により1点の押型文土器が出土している。遺跡は標高150mの台地上に位置している。磯山城遺跡の第1トレンチ以外の大半が標高80～90mに位置している点、この立地は注目される。特に同じ余呉町黒田永山遺跡が標高160mで、湖北地方でも特に北端のこの2遺跡に共通している。

出土した押型文土器は横位に密接施文された山形文で、山形は幅6%、高さ4%、器壁は1cmを測る。^①(図-1)

2. 黒田永山遺跡 伊香郡余呉町黒田

1978年度に実施された黒田永山古墳群の調査で押型文土器が出土している。出土地は古墳の下層で尾根上の地山面であった。遺跡は前記の坂口遺跡同様、丘陵地で標高160mの高所に立地している。

出土した押型文土器はすべて楕円形の押型文であり、2種に分類できる。1つは胎土が粗く多量の砂粒の含まれるもので、押型施文も非常に乱雑である。これは焼成も不良で非常にもろい(図-2～3)。いま1つは胎土が精選されており、押型施文も、斜位に規則的に施されている(図-4～5)。2種ともに、内面に斜行沈線が認められ、楕円はいずれも長径8%、短径4%で器壁は1.5cmを測る。これらは高山寺式土器である。

3. 葛籠尾崎湖底遺跡 東浅井郡湖北町尾上沖

琵琶湖及び内湖底に所在する遺跡は、いずれも陸地に近接し、水面下数メートル以内に立地しているが、この葛籠尾崎湖底遺跡は深度が深く、最も深いところでは水面下70m(標高15m付近)にも達する。大正13年に漁師の網によって完形の縄文式土器が引きあげられて以来、縄文時代早期から平安時代に至る多くの土器、石器が発見されている。

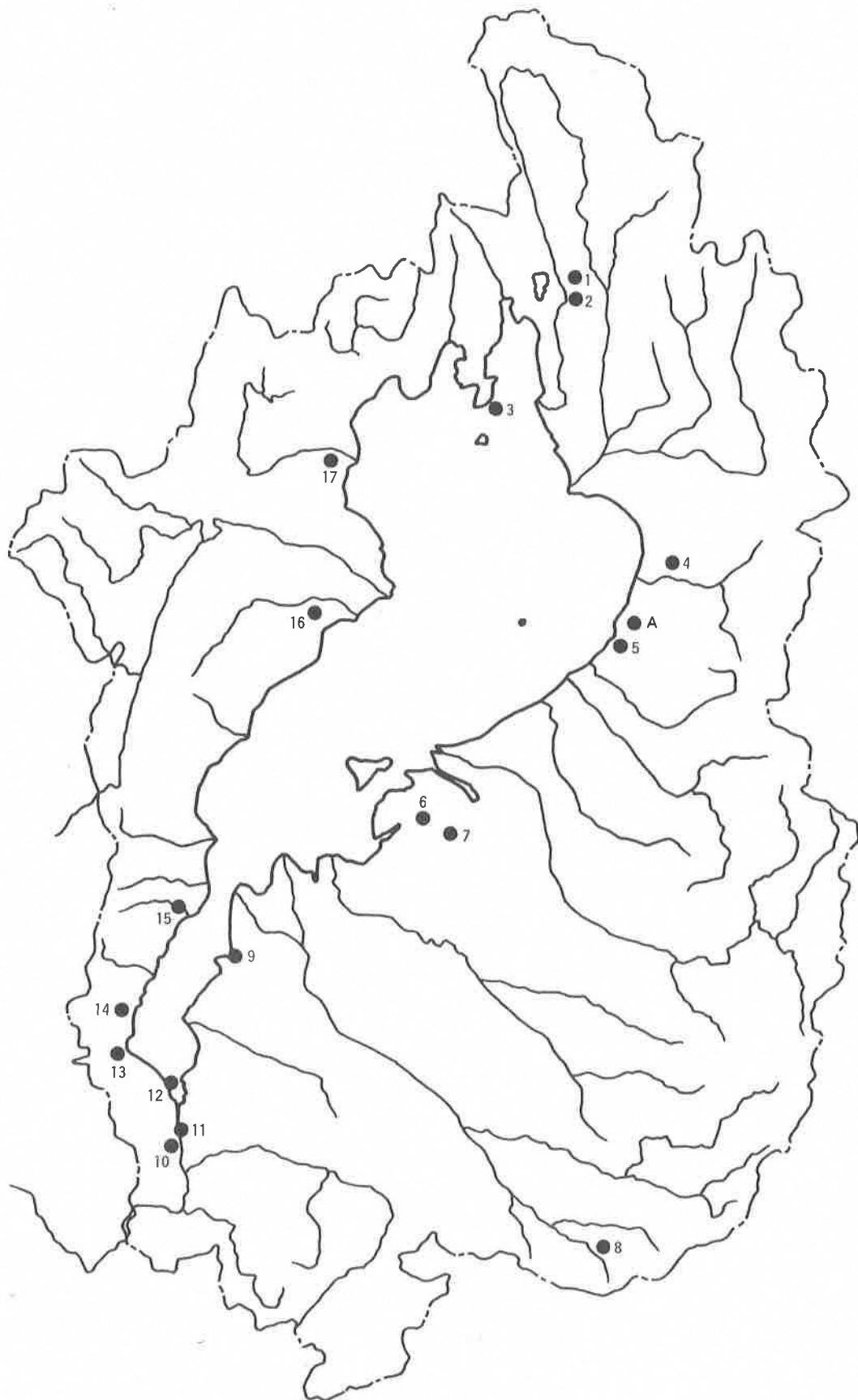
この遺跡の性格については従来よりさまざまな論議がかわされているが、^②ここでは発見された押型文土器についてのみ説明する。

押型文土器は5点が確認されている。5点のうちわけは、山形の押型文3点と楕円形の押型文2点である。山形の押型文には(a)従来より葛籠尾Ⅰ式と呼ばれる、口縁と底部に横位密接施文、胴部は斜位に密接施文をしたものと(写真上段左)、(b)横位のみ密接施文したものとがある(写真上段右)。楕円文はいびつな施文であり、残存部分内面には斜行沈線文は認められない(写真中段)。底部はいずれも尖底である。

これらは永く湖中にあったことを示す湖成鉄の付着が認められる。

4. 法勝寺遺跡 坂田郡近江町高溝

法勝寺遺跡は白鳳時代から平安時代の寺院跡であるが、その下層より古式土師器を出土する包含層より3



滋賀県における押型文土器出土遺跡分布図

- | | | | |
|-----------|----------|-----------|------------|
| A：磯山城遺跡 | 1：坂口遺跡 | 2：黒田永山遺跡 | 3：葛籠尾崎湖底遺跡 |
| 4：法勝寺遺跡 | 5：松原沖遺跡 | 6：大中の湖西遺跡 | 7：安土遺跡 |
| 8：油日遺跡 | 9：赤野井遺跡 | 10：石山貝塚 | 11：蜷谷遺跡 |
| 12：栗津湖底遺跡 | 13：北大津遺跡 | 14：滋賀里遺跡 | 15：衣川廃寺 |
| 16：鴨遺跡 | 17：弘川遺跡 | | |

点の押型文土器が出土している。法勝寺遺跡付近の標高は88.5mである。

出土した押型文土器はいずれも長径8mm、短径3～4mmの楕円形の押型文を外面に施したもので、胎土に砂粒を含み、焼成は堅緻である。器壁の厚さは1.5cmと厚い。これらの点より、高山寺式土器と考えられる。内面は平滑であり、斜行沈線文がなく、胴部以下の破片と考えられる(図-6～8)。

5. 松原沖遺跡 彦根市松原町

矢倉川の河川改修に伴い押型文土器が出土している。押型文土器は超大型の楕円形の押型文で、ネガティブと考えられるものも出土している。また「コ」の字形と見える押型文もあったということである。いずれも形状、所有者等詳細は不明である。

6. 大中の湖西遺跡 近江八幡市大中町

1967年の大中の湖で干拓地区内整地事業の際、縄文式土器の出土を見た。遺跡は干拓地南西隅より約200m北方、奥島山塊の南東に派出する所に立地している。この地は、干拓前には内湖水面より0.5～1m下であった。遺跡のうち、北半分は縄文時代早期から前期が中心となっており、南半分は縄文時代後期が中心となっている。

出土した押型文土器は楕円形の押型文土器の口縁部で、楕円文は大きい。内面は平滑で斜行沈線文は認められない。

7. 安土遺跡(弁天島遺跡) 蒲生郡安土町下豊浦

1949年に小林行雄氏が採集した縄文式土器が、現在京都大学文学部考古学棟列室に所蔵されている。大部分は前期の土器であるが、数点の押型文土器が認められる。この押型文土器は外面全体に小型の楕円形の押型文を施したもので、厚さは1cmを測る。また山形文の押型文土器も1点見られるが、磨滅が激しい。山形文としては、器壁が厚く1cmを測る。

8. 油日遺跡 甲賀郡甲賀町油日

三重県境に近い標高280mに立地する油日遺跡は、1972年試掘調査が実施され、押型文土器が出土した。この押型文土器は、鈴鹿の油日断層面から20m地点で、古琵琶湖層のほぼ上面に穿たれた直径3.5m、深さ1.2m、底辺2m程の貯蔵穴と考えられる土坑中より出土している。

押型文は格子目状の押型文で、この押型文に伴い無文土器と石器剥片が出土している。

9. 赤野井遺跡 守山市赤野井

赤野井遺跡は、琵琶湖底に位置する遺跡で、1984年に赤野井浚渫工事に伴い試掘調査が実施された。調査の結果、縄文時代中期を主とする包含層が確認された。この包含層の下層より押型文土器と前期の土器が出土している。調査は潜水により、一層ずつ掘り下げておこなったもので、押型文土器は湖底面下2.2mで出土しており、原位置を保っているものと考えられる。出土地点は標高80m付近である。

出土した押型文土器は12点で、明確に文様の確認できるものは3点であった。この3点はネガティブな横長楕円形の押型文で、神宮寺式、大川式に併行するものと考えられる。

10. 石山貝塚 大津市石山寺辺町

石山貝塚は標高 87.75 m に立地する縄文時代早期の遺跡である。1950年、1951年、1952年の3回にわたり、平安学園考古学クラブを中心として発掘調査が実施された。この調査で、早期後葉の条痕文系土器が多量に出土したが、押型文土器が若干出土している。

押型文土器は地表下 180 ～ 220 cm のところ、黒土層上部より出土している。

出土した押型文には大きく2型式がある。

(1) 楕円形の押型文を有するもの^⑩

このタイプは、報告書図版 1 ～ 10 の土器で、外面全体に楕円形の押型文が施されている。さらに内面施文によって2つの細分が可能である。(1-a) は口縁内面に斜行沈線文を施しているもので、報告書図版 3, 4 がこれにあたる。これは高山寺式土器である。(1-b) は口縁内面にも楕円形の押型文を横位に押捺しているもので、報告書図版 1, 2 がこれにあたる。

(2) 穂谷式と呼ばれているもの

楕円形の押型文に対して、(2)型式の特徴は口縁部やや下がったところに突帯を付し、突帯上に刻目を施している。押型文はこの刻目突帯と口縁端部間に山形文を施している。報告書では口縁内面にも山形文が施されているとある。なお突帯より胴部にかけては刺突文列や沈線による複合鋸歯文を施している。報告書 11 ～ 19 がこれにあたる。

ところでこのタイプは穂谷式とされているが、標式遺跡である大阪府穂谷遺跡からは出土していない。^⑪『枚方市史』による穂谷式は振幅の非常に少ない波状に近い山形押型文を指している。

ここでは穂谷式について詳細に考察する余白はないので、割愛するが、いずれにせよ石山貝塚における穂谷式と呼称される土器は器面に押型文と突帯、刺突文を併用した特殊なものである。片岡肇氏はこの穂谷式を、「一般的には高山寺式を最終型式として、押型文土器は姿を消すが、近畿地方の穂谷式のように、幾分特殊な土器の残るところも認められる。」^⑫としている。

11. 螢谷遺跡 大津市石山寺辺町螢谷

1984～1985年にかけて瀬田川浚渫工事に先だち、瀬田川東岸より川の沖合約 50 m 地点で発掘調査が実施された。この地点は、川底が標高 81.0 m で、縄文式土器の包含層はさらに 0.5 m 下層で検出された。出土した縄文式土器は早期から晩期に至るまでのものである。

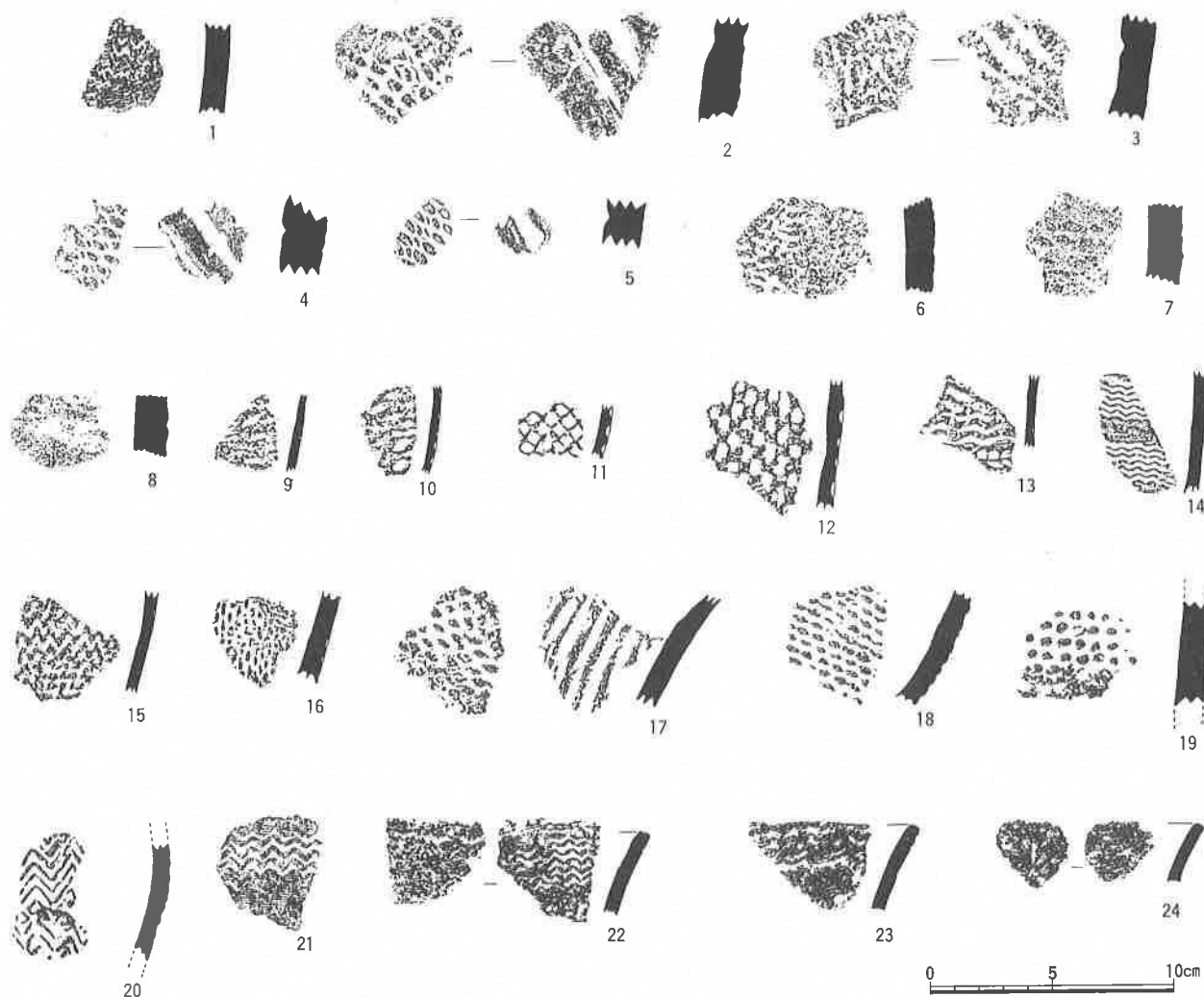
なお同遺跡では平安時代中期より後期にかけての生活面が検出されており、瀬田川河底が縄文時代早期より平安時代後期まで陸化していることが明らかになった。

出土した押型文土器は、(1)神宮寺式から大川式に併行すると見られるネガティブな横長の楕円形押型文土器、(2)尾上式(葛籠尾Ⅰ式)に相当する横位密接施文された山形押型文土器、(3)異方向への山形文を帯状に施文する樋沢式と考えられるもの、(4)石山貝塚で穂谷式と呼称される特殊な押型文、(5)格子目状押型文等、出土量は少ないが、多型式の押型文土器が出土している。

螢谷遺跡の調査報告書は近刊される予定であり、詳細は報告書にゆずりたい。^⑬

12. 栗津湖底遺跡 大津市栗津晴嵐町

栗津湖底遺跡は名称が示すように現在琵琶湖底に位置している。その標高は P 地点では下層の貝塚が水面下 3.94 m (標高 80.80 m)。Z 地点では水面下 2.90 m (海拔 81.85 m) である。



滋賀県下出土押型文土器拓影

- 1 : 坂口遺跡出土 (注①による)
 2～5 : 黒田永山遺跡出土
 6～8 : 法勝寺遺跡出土 (注③による)
 9～16 : 粟津湖底遺跡出土 (泉拓良氏提供資料)
 17 : 滋賀里遺跡 (湖西線関係) 出土 (注⑤による)

- 18 : 〃 (小山古墳群) 出土 (注⑦による)
 19～20 : 〃 (見世地区) 出土 (注⑨による)
 21 : 鴨遺跡出土 (注⑩による)
 22～24 : 弘川遺跡出土 (注⑪による)

遺跡からは縄文時代早期から中期に至るまでの多量の土器が出土している。このうち押型文土器には、(1)軸に縦位に陽刻した原体を回転させたネガティブな押型文 (図-9～10), (2)格子目状押型文 (図-11), (3)市松文状押型文 (図-12), (4-a) 山形押型文 (図-15), (4-b) 波状に近い振幅の少ないなだらかな山形文 (図-13), (4-c) 山形文を帯状に施したもの (図-14), (5) 楕円形の押型文がある (図-16)。 (4) 類中には矢羽根状の押型文を併用したものや、篋描き沈線を押型施文後に施したのものもある^⑭。

13. 北大津遺跡 大津市皇子ヶ丘

1971年に国鉄湖西線北大津駅建設に伴い発掘調査が実施された。遺跡の中心は倉庫地域を有する古墳時代前期の集落であったが、第Ⅱ区、第Ⅲ区で押型文土器が出土している。第Ⅲ区出土の土器は底部が尖底となっており、楕円形の押型文を施している。第Ⅱ区のものは、横位に密接施文する山形文で、口縁端部に斜位の刻目を施している^⑮。

14. 滋賀里遺跡 大津市滋賀里

大津市滋賀里地域では3ヶ所から押型文土器が出土している。

①国鉄湖西線関係遺跡 1971年より実施された湖西線の調査でⅢD区灰褐色砂泥層より、1点押型文土器が出土している。遺跡は標高95m上に位置しており、ⅢD区は開析谷の北向き斜面の晩期の小貝塚にあたる。滋賀里遺跡は周知のように晩期の遺跡であり、晩期以前の土器は開析谷へ流れた堆積層より出土したものばかりである。

出土した押型文土器は、外面に長径7.5mm、短径3mmほどの楕円形の押型文を全面に施しており、器壁は1cmを測る。内面には斜行沈線文が施されており、高山寺式土器であろう^⑮(図-17)。

②滋賀里小山古墳群 1979年に発掘調査が実施された、滋賀里小山古墳群より、1点の押型文土器が出土している。出土地は4号墳の攪乱層中で、標高は121.0mの地点である。

押型文土器は、土器外面全体に小形の楕円文を斜位に施しており、繊維は含まれない。高山寺式土器と考えられる^⑯(図-18)。

③滋賀里遺跡(見世地区) この遺跡は、先の湖西線関係遺跡のⅣB地区南半分の西側に隣接した地に位置している。1979年に発掘調査が実施され、Ⅳ区の遺物包含層(第2層)より2点の押型文土器が出土している。

押型文土器は楕円形と山形文である。楕円形の押型文はほぼ円形に近い楕円形で、外面全体に施文されている。胎土は粗く、多量の砂粒を含む。器壁は1.3cmと厚い。色調は淡褐色を呈し、焼成は悪い(図-19)。山形文は器壁が薄く、胎土、焼成ともに良好で、全体に明るい淡赤褐色を呈する^⑰(図-20)。

15. 衣川廃寺 大津市堅田衣川町西羅

1975年に発掘調査が実施された白鳳時代の衣川廃寺より押型文土器が数点出土している。衣川廃寺は標高110m付近に立地しており水田面より3mほど高所に位置している。押型文土器の出土位置は、衣川廃寺の東遺構(推定塔跡)の版築に用いられた黒褐色土層中である。報告書では付近に存在する縄文遺跡より持ち運ばれた土であろうとしている。

押型文土器は11点あり、明確に文様のわかるものとしては、(1)山形押型文、(2)格子目状押型文、(3)楕円形押型文の3種がある。このうち(1)山形押型文には(1-a)山形文の振幅の広い、なだらかなものと、(1-b)山形文の角度が強いものと2タイプがある^⑱(写真下段)。

16. 鴨遺跡(宿鴨遺跡) 高島郡高島町宿鴨

鴨遺跡は、1979年のほ場整備事業に伴い発掘調査が実施された。遺跡は標高89m付近に立地する。押型文土器は検出された古墳の封土中より出土している。

出土した押型文土器は3点であり、すべて山形の押型文である。(1)山形がややなだらかで波状に近い、振幅の少ないもの、(2)振幅の強い密接施文されたもの、(3)無文帯を挟む横位の帯状施文がある^⑲(図-21)。

17. 弘川遺跡 高島郡今津町弘川

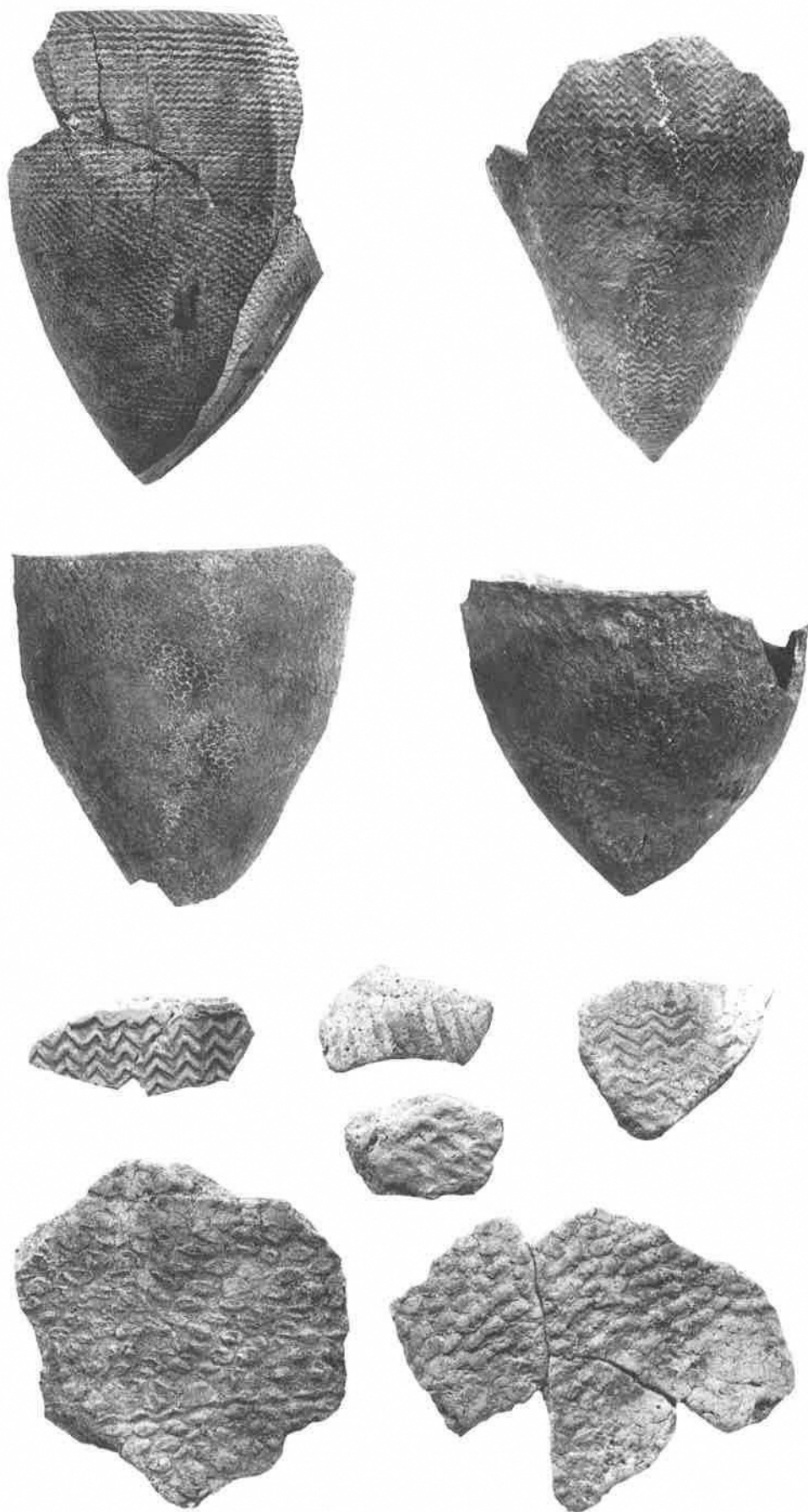
弘川遺跡は、1976～1977年度にわたり発掘調査が実施され、8～10世紀の倉庫群が検出された。この調査に際して表土層や遺構に混入して押型文土器が出土している。遺跡は若狭街道に沿う標高111.5m付近で、北方石田川とは比高11mを測る台地上に位置している。

出土した押型文土器は3点で、すべて山形の押型文土器である。(1)口縁内面にも横位に山形文が施されるものと(図-22, 24)、(2)外面のみに山形文を施すものと2種がある(図-23)。(1)では特に口縁端部にも押捺するものがある。^{②①}胎土は粗く、砂粒を含む。

本稿を記すにあたって、遺物の出土地、土器の形態等について、片岡 肇、泉 拓良、西田 弘、丸山竜平、兼康保明、田中勝弘、白井忠雄、白井順子、濱 修、柚木俊一郎、酒田裕次、佐藤宗男の各氏より種々御教示賜わった。記して感謝する次第である。

註

- ①田中勝弘他編『北陸自動車道関連遺跡発掘調査報告書Ⅹ-伊香郡余呉町坂口遺跡-』滋賀県教育委員会、(財)滋賀県文化財保護協会 1984
- ②小江慶雄「琵琶湖の湖底遺跡」(『京都教育大学紀要』Ser. A No.30 京都教育大学 1966)
丸山竜平「琵琶湖底に眠る水没遺跡を探る」(『えとのす』No.3 1975)
林博通編『琵琶湖湖岸・湖底遺跡分布調査概要Ⅰ』滋賀県教育委員会、(財)滋賀県文化財保護協会 1973
- ③田中勝弘「湖北地方の縄時代遺跡」(『滋賀県文化財だより』No.19(財)滋賀県文化財保護協会 1978)
- ④片岡肇氏の御教示による。
- ⑤佐藤宗男氏の御教示による。
- ⑥佐藤宗男、酒井和子「大中の湖西遺跡出土の縄文式土器」(『滋賀文化財だより』No.3(財)滋賀県文化財保護協会 1977)
- ⑦京都大学文学部編『京都大学文学部博物館考古学資料目録』第1部 1960、および片岡肇氏の御教示による。
- ⑧柚木俊一郎氏の御教示による。
- ⑨酒田裕次氏(京都市埋蔵文化財調査研究所)の御教示による。
- ⑩原口正三編「石山貝塚概説」(『研究論集』Ⅰ 平安学園教育研究会 1956)
- ⑪片山長三「第2編 枚方の遺跡と遺物」(『枚方市史』第1巻 枚方市役所 1976年)
- ⑫片岡肇「課題5 西日本の押型文土器の編年とその特徴」(『概報・樋沢遺跡』岡谷市教育委員会、塩尻市教育委員会 1982)
- ⑬濱 修「縄文時代～平安時代の遺物包含層を検出-大津市蜷谷地先蜷谷遺跡-」(『滋賀文化財だより』No.102(財)滋賀県文化財保護協会 1985)
- ⑭泉拓良氏の御教示による。
- ⑮『北大津遺跡調査概要』(現地説明会資料)1971、および西田弘、片岡肇氏の御教示による。
- ⑯湖西線関係遺跡発掘調査団 田辺昭三編『湖西線関係遺跡調査報告書』滋賀県教育委員会 1973
- ⑰細川修平「5遺物」「2 滋賀里小山古墳群発掘調査報告」(『大津市埋蔵文化財調査報告書(5) 滋賀里・穴太地区遺跡群発掘調査報告書Ⅱ』大津市教育委員会 1982)
- ⑱松浦俊和「4 滋賀里遺跡発掘調査報告」(『大津市埋蔵文化財調査報告書(5) 滋賀里・穴太地区遺跡群発掘調査報告書Ⅱ』大津市教育委員会 1982)
- ⑲丸山竜平他編『衣川廃寺発掘調査報告書』滋賀県教育委員会、(財)滋賀県文化財保護協会 1975
- ⑳丸山竜平他編『高島町歴史民俗叢書第二輯 鴨遺跡』高島町教育委員会、滋賀県教育委員会、(財)滋賀県文化財保護協会 1980、および兼康保明「第1章 高島のあけぼの」(『高島町史』高島町役場 1983)
- ㉑田中勝弘編『弘川遺跡発掘調査報告書』滋賀県教育委員会、(財)滋賀県文化財保護協会 1979



上段・中段 葛籠尾崎湖底遺跡出土押型文土器
下段 衣川廃寺出土押型文土器

(撮影・寿福 滋)
(写真提供・滋賀県立近江風土記の丘資料館)